

京浜地区とは

日本経済の繁栄を支えてきた京浜臨海工業地帯の中核として、多くの工場等事業所が立地しています。

- 京浜地区
- 末広地区
- 生麦新子安地区
- 鉄道・駅
- 駅から海への導線
- 首都高速
- 主な幹線道路



緑化協議に際してのお願い

横浜市では、「緑の環境をつくり育てる条例」に基づき、事業者等との緑化協議書を取り交わしています。また、横浜市では、京浜地区の事業者等との協働により地域の緑の環境づくりを進める「京浜の森づくり」に取り組んでいます。

京浜の森づくりでは、企業の緑地や環境活動との協働のもとに、緑地の効用がより効果的に発揮されるよう、きめ細かい情報を提供しています。

地区内で、建築物等を計画される際には、次の事項について御配慮をお願いいたします。

【配慮事項】

- 1 建築敷地内に既存の緑地や樹木等がある場合は、保全に努めてください。
- 2 新たな緑地では、臨海部構成樹種や横浜在来の樹種を中心に使用し、緑地の効用に合わせて、できる限り多様な植栽を行ってください。
- 3 「末広地区」及び「生麦新子安地区」では、地域緑化計画に基づいて、沿道や水辺などの景観に配慮し、緑豊かな地域づくりに努めてください。

関連法令等のサイト

< 建築行為に伴う緑化協議 >

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/area-green/ryokukakyouggi/>

< 工場立地法の届出 >

<http://www.city.yokohama.lg.jp/keizai/jourei/ritti.html>



「京浜の森づくり」に賛同する事業者の緑化活動や環境行動を横浜市は応援します。事業所HPやCSR報告書などでロゴマークを活用できます。

問い合わせ先

横浜市環境創造局みどりアップ推進課
(京浜の森づくり担当)

〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地
電話番号：045-671-3447 FAX番号：045-224-6627

e-mail: ks-keihin@city.yokohama.jp
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/green/keihin/>



横浜市環境創造局



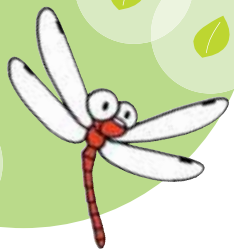
はじめよう環境行動
つなげよう京浜の森

京浜の森づくり



「京浜の森づくり」のイメージ図
臨海部の水辺と丘陵の緑とのつながりを再生していきます
企業の緑地や公開施設、公共の緑、市民に身近な緑をつなぎます
さまざまな主体が緑化活動を展開する場になります





未来の引き継ぐ京浜の森づくり

京浜地区では、企業の緑地や市民に公開されている施設を、地域の財産としてとらえ、公共の緑や水辺などとあわせて、企業、市民等が協働して緑化活動を展開し、次世代にも引き継いでいく緑のまちづくりを提唱しています。

京浜の森づくりの考え方

協働による緑の拡充・活用の推進

新たな産業拠点としての良好な
地区イメージの創出

緑の確保・緑のつながりの形成

環境行動のアピール

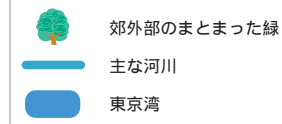
京浜の森づくりの指針

- ① 緑豊かな景観の向上
- ② 市民に身近な水際の緑化推進
- ③ 持続性の高い緑地づくり
- ④ 緑地の改善と拡充
- ⑤ 自然環境の復元
- ⑥ 企業・市民・行政の協働による緑化

横浜市との協働

京浜の「森」って何だろう？ ～緑と水辺のつながり～

東京湾をのぞむ京浜地区は、鶴見川などの河川により郊外部のまとまった緑とつながっており、河口や運河等の水環境にも恵まれています。このため、横浜の自然環境を再生する中心核として期待されています。地区の工場等には100ha以上の緑地が確保され、山下公園13個以上にも相当します。これら「森」とも言える緑は立地企業の努力により、地域の環境財産に育っています。環境経営に積極的な企業では、ビオトープづくりや緑地の公開などに取り組んでいるところもあります。これらの緑地の活用や環境活動とともに、さまざまな主体が協働して、人と緑と水辺のつながりを育てていくことで、地域の緑の環境づくり「エコアップ」を進めます。



「横浜みどりアップ計画」

横浜市では、市民とともに身近な水辺や緑を保全・創造し、将来にわたって緑の総量の維持・向上を図る「横浜みどりアップ計画」を進めています。「緑をつくる」施策としては、市街地での緑の量と質を確保するとともに、京浜の森づくり事業により臨海部の工場等で育てられてきた緑地等の拡充を企業や市民のみなさまとの協働により推進していきます。

緑をつくる



農地を守る

樹林地を守る

● 企業緑地の状況

京浜地区の工場等には、法令等により一定の緑地が確保されています。植栽後、40年以上を経た緑地は成熟し、地域の環境財となっています。人が踏み込まない緑地にはさまざまな生きものが生息する空間が発達し、自然度が増しています。

● 京浜地区の特色

京浜地区は、100年来の工業地帯であり、法令等により緑化が義務づけられる以前から操業している工場等が多く、施設更新のための緑地確保が難しい事業所も多くあります。このような企業の緑地拡充を地域の緑のまちづくりとあわせて支援しています。

● 地域緑のまちづくり事業

産業地区にふさわしい豊かな環境づくりを進めるため、次の2地区では地域ぐるみでの緑のまちづくりを公民の協働により地域緑化計画として策定し、これに沿ってそれぞれの緑化を進めています。

【地区の概要】

	末広地区	生麦新子安地区
沿道の緑化	沿道の緑化	沿道の緑化・美化
身近な水辺等の緑化	歩いて楽しい緑	橋などから見える水辺の緑
公開緑地等	地域交流の場としての緑	
エコアップ緑地	貨物線の森緑道の整備	
協働緑地		
地区面積(水域含む)	323ha	255ha
就業者数	約8.8千人	約17.4千人

協働の考え方

京浜地区では、豊かな環境の産業拠点としての緑の環境づくりが課題になっています。地区に立地する多くの企業と市民、行政と一緒に知恵を出しあって、この課題に取り組んでいくことを「協働」と考えています。企業のみならずと連携し、市民NPO等とも協力して京浜地区で豊かな緑の環境を創りましょう。

横浜市では京浜の森づくりの指針に沿った協働による緑の拡充・活用を横浜みどりアップ計画「緑をつくる」として位置づけ、企業や市民のみなさんに広く呼びかけて、協働による緑化活動を進めていきます。



協働緑化支援事業

横浜市は、事業者が京浜の森づくりの指針に沿って行う協働緑化事業に対して、支援を行っています。

公開緑地整備

市民に公開される水際等の緑地整備を行う場合

エコアップ整備

生物多様性の保全などのための緑地整備を行う場合

沿道緑化整備

接道部分のコンクリート塀を緑地に転換整備する場合

協働緑地整備

市民植樹など、事業者からの提案により協働緑化にふさわしい緑地整備する場合



1 水辺の公開緑地

鶴見線支線終点「海芝浦駅」に隣接する海芝公園は、企業が工場の一部を公園的に整備し、訪れた人たちに開放しているもの。京浜運河と鶴見つばさ橋を眺める絶好の場所。

開園時間 / 9:00~20:30



東芝・海芝公園

3 市民協働による植樹

企業の公開緑地(1.2ha)として、横浜港と富士山を望む遊歩道と展望台・大黒の丘を整備。小学生がタネから育てた苗木を植樹しました。



大黒プロムナード

2 緑地のエコアップ・水鳥の営巣地

子どもたちがドングリから育てた苗木を植樹した緑地やコチドリなどが営巣しやすい砂礫地をつくっています。あえて樹木などは植えていません。



扇島パワー

4 緑地のエコアップ・庭園緑地

工場の拡張にあわせて、回遊できる庭園緑地を整備。その後、修景池をピオトープ化しています。



麒麟ビール

5 緑地のエコアップ・トンボ池

社屋再開発の際に、敷地内にエコアップ緑地を整備。トンボ池にはあえて水草等を移入しないで自然再生を観察しています。既に多種の水草とメダカが発生しています。



JVCケンウッド

6 屋上ピオトープ

身近な生活環境から地球規模の環境までを分かりやすく学ぶことができる体験学習施設。雑木林や池のある屋上ピオトープには必要以上に手を入れず、自然のままに樹木や野草が育って、トンボなどの生き物の観察も楽しめます。(月曜休館)



東京ガス環境エネルギー館

7 駅前の公開緑地

駅前街区の再開発にあわせ、敷地の一部を公開し、通勤者の憩いの場になっています。民間駐車場駐車場等が整備されています。



JFEエンジニアリング

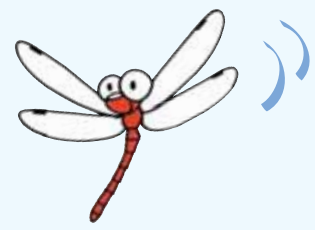
8 公開緑地と市民活動

地下ケーブル用地が草花に彩られた公開緑地に生まれ変わりました。緑地内にはトンボ池も整備され、自然観察等の市民活動の場になっています。地域の方々によって、トンボみちファンクラブが活動しています



JFEトンボみち

事業所のみなさんは、どんな取り組みをしているのかな？



**21 緑の保全・名古屋木
遍照院**

市指定名木・古木のタブノキ（樹齢270年・樹高18m）とイチヨウ（樹齢170年・樹高18m）とがあります。他にも大聖寺、龍泉寺、安養寺、熊野神社、宗興寺など

植樹・育樹のつどい

京浜地区には、市民からよせられたドングリや子どもたちがタネから育てた苗木などを植樹しています。これまでに市民や地元企業社員によって、多くの苗木が植えられました。また、植樹地の草抜きなどの手入れも市民協働で行われています。

**22 水際線の緑地
末広水際線プロムナード**

平成16年、市民や地域企業によって、9000本の苗木が植樹された緑地。毎夏、自分が植えた木を見守る草取りにも。目の前には鶴見つばさ橋、遠くに房総の眺望が素晴らしい場所です。

**23 エコアップ・干潟保全
鶴見川河口干潟**

築堤工事の際に、それまでの干潟を残して環境整備されました。カニや稚魚などの多くの生き物が生息しています。



ボランティア活動の支援

横浜市では、企業緑地等の愛護活動を支援するとともに、企業公開施設等を紹介するボランティアガイドの養成を支援しています。「鶴見みどころガイドの会」や「神奈川県いみむかしガイドの会」では、地域の成り立ちなどを市民同士が伝え合うボランティアガイドが京浜地区を案内しています。

**トンボはどこまで飛ぶか
プロジェクト**

事業所と市民、行政、専門家、学生等が協働でトンボ調査を実施し、緑地のエコアップやトンボ池づくりなどの活動を進めています。平成15年からのトンボ調査により京浜臨海部の企業緑地等をつなぐトンボ・ネットワークの存在が確認されています。

**9 エコアップ・トンボ調査
東芝・京浜事業所**

地域における生態系ネットワークを確保するため、グラウンドや用水池に飛来するトンボを、ボランティア調査員たちが調べています。

**10 エコアップ・水草植栽
マツダ(株)R&Dセンター横浜**

中庭の池に水草を植えてエコアップしたら、水質がきれいになりました。

**11 エコアップ・人工干潟
横浜港湾空港技術調査事務所**

古くなった護岸を作りなおす際に、海辺の自然を再生。干潟や磯場に生まれる自然環境を調査研究中。市民と海との楽しいふれあいの場となっています。

**12 エコアップ・ビオトープづくり
市立横浜サイエンスフロンティア高校**

**13 エコアップ・ビオトープ池
北部第二水再生センター**

**14 エコアップ・草原ビオトープ
入船公園**

草原広場を夏の間、刈り残してバッタなどのビオトープにしています。

トンボ調査 県立三ツ池公園

トンボ調査 二ツ池

ドングリから森をつくろう活動

地域の小学校とともに緑化を進めるため、子どもたちが身近な場所で拾ったドングリなどの樹木のタネから苗木をつくり育ててもらっています。鶴見区・神奈川区の小学校13校の子どもたちが参加し、育てられた苗木は京浜地区の新たな公園や企業緑地等に植樹しています。

- 鶴見区：入船小学校，上寺尾小学校，岸谷小学校，駒岡小学校，生麦小学校，馬場小学校，矢向小学校，獅子ヶ谷小学校，下野谷小学校
神奈川区：浦島小学校，子安小学校，白幡小学校，菅田小学校

**15 協働緑化・ドングリ学校
日亜化学工業**

敷地内の緑地に、近隣の子安小学校の子どもたちがドングリから育てた苗木を自ら植樹しました。

**16 緑化活動
貨物線の森緑道**

京浜工業地帯の動脈として活躍していた貨物線の跡地に生まれ変わるようとしています。地域の方々がマイガーデンのように育てています。

貨物線の森ファン倶楽部

**17 歴史遺産
日産自動車・ゲストホール**

昭和10年、日本初の車両一貫生産工場として稼働当時の本社ビル。館内には歴代エンジンやクルマが動く仕組みなどを展示しています。横浜市認定歴史的建造物。

**18 歴史遺産・神奈川の台場跡
神奈川台場公園**

開港当時、大砲が置かれた港の防衛拠点。勝海舟が設計して作られた砲台で、万延元(1860)年に完成。埋め立てには権現山の土砂が使われました。周囲の埋め立てが進み、石垣の一部が当時の面影を偲ばせています。

**19 エコアップ・水生植物護岸
ポートサイド公園**

帷子川河口で、潮の干満と波の影響を受ける汽水域で、水域から陸域に連続した自然豊かな水辺の環境が創出され、カニやハゼ、ゴカイ等の海洋生物と多種の昆虫類も生息しています。

**20 緑の保全
浅野学園・銅像山**

「銅像山」と呼ばれる自然林は県愛護林鳥獣保護区に指定されています。頂上には、京浜工業地帯の埋立てを進めた事業家、浅野総一郎の銅像があり、今も京浜工業地帯を見守っています。

イラスト 飯塚要